

学校関係者評価委員会

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価	学校関係者 評価委員会 評価	学校関係者評価委員からのご意見
1 教育 理念 ・ 目的 ・ 人材 育成	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	本校の教育理念や育成人材像は開校当初より明確であり、学生便覧、学校ホームページ、学校案内等に明示されている。これらの理念等は学校説明会やオリエンテーション、保護者会等を通じて関係者に周知されている。社会の変化を速やかに教育に反映させるため、業界関係者等を構成員とする教育課程編成委員会を設置し、常に新しい情報を収集し教育カリキュラムや教育指導方法の改善を図っている。	本校は平成26年3月31日に文部科学省より9学科について「職業実践専門課程」の認定を受けた。今後はそれぞれの学科の業界連携教育をわかりやすい形に図にまとめなどしてホームページ等で公開し、学校学科の特色を積極的に示して行きたい。	4	4	理念、目的、育成人材像は開講当初より明確に定められている。教育課程編成委員会を設置し、常に新しい情報を収集し、教育プログラムや教育指導方法の改善を図っていることは大いに期待できる。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	学生便覧には学科の教育目標、育成人材像、取得目標資格等が記載され、学生にも周知されている。カリキュラムの編成には、業界関係者の意見を反映させるしくみができている。教員の採用に際しては職能団体等の協力を仰いでおり、学内講義・実習・行事等では業界関係者が直接指導して、業界の現状や求められる人材像などが学生に伝えられている。必修科目である学外実習では業界の現場体験が可能である。	継続的に教育課程編成委員からの定期的な業界情報の収集と、キャリアセンター職員の業界情報収集を統合して各学科の教育に反映させる仕組み作りに取り掛かる。実践的な内容の教材作成について、業界との連携を図るため、職能団体等と協議を始めており引き続き継続していく予定である。	3	3	・学校の教員の技士会への活動もされており、ニーズの把握をされていると思います。 ・業界関係者が直接指導して、業界の現状や求められる人材像などが学生に伝えられていることや現場体験が可能であること等、育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合している。 ・専門知識も必要ですが、人物育成が現場ではそれ以上に重要になると思います。高校も10年後に社会に貢献できる人物の育成が大切になってくると思います。授業もICTやアクティブラーニングの導入も考えており、いかに生徒の興味や関心のある内容にできるかが学校の特色につながっていくと思います。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	本校では卒業研究や海外研修プログラムなどの特色ある教育活動により、職業に直結した教育を展開している。	さらに特色ある内容の教育を充実させていく。	4	4	・実学教育、国際教育に関してはシラバスやカリキュラムをみるとしっかり取り組んでいるが、人間教育に関して、カリキュラムの拡大・拡充が必要と考える。 ・卒業研究や海外研修プログラムなどの特色ある教育活動により、職業に直結した教育を展開していること、今後の益々の特色ある教育活動を期待します。
	1-1 理念・目的・育成人材像 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	中長期的な学校の将来構想は法人の5か年計画や事業計画に定めており、学校内の会議等で教職員に、また学生・保護者・業界関係者には学園新聞やホームページで周知している。	学校の将来構想については、より具体的にわかりやすく学校関係者に周知できるよう努力を続ける。	4	4	将来構想は学校内の会議等で教職員また学生・保護者・業界関係者に学園新聞やホームページで周知していることは、とても良いことで学校への信頼度に繋がる。
2 学校 運営	2-2 運営方針 2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	本校の運営方針は教育理念や育成人材像をもとに設定されている。運営方針は毎年度作成される事業計画にも明示されているが、事業計画の作成には教職員の代表が委員会を作って作成にあたっており、作成後は校内の会議を通じて周知を図っている。	運営方針は年度計画として毎年度検討され、文章にまとめられている。運営方針が記載されている事業計画書の書式は法人内で統一されており、10年以上にわたってほぼ同様の書式で作成しているため、姉妹校間で比較検討したり、過去の取り組みと比較することが容易である。	4	4	理念に沿った運営方針はしっかり定められている。
	2-3 事業計画 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	学校法人大阪滋慶学園では中期計画として5か年計画を策定しており、各校はその計画に基づいて事業計画を策定している。5か年計画、単年度の事業計画ともに、学校教職員に対して会議等を通して理解と共有を図っている。事業計画には年度目標(定量・定性目標)、予算、運営体制、職務分掌なども明記されている。	事業計画では5か年分の学生数を予測し、収支予算の計画も作成している。学校の経営基盤を安定させることが新しい取り組みにつながり、学校の発展に寄与することになる。	3	3	・学生数予測では、減少の傾向。技士会としても技士の魅力を一緒にアピールできればよいと考えます。 ・理念等を達成するために事業計画は5か年分の学生数を予測し、収支予算の計画も作成しているので十分定められていると思う。
	2-4 運営組織 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	法人の理事会、評議員会は規程に則り適正な運営がなされている。学校内の組織として教務部と事務部があり、それぞれ職務分掌を明確に定めて業務を行うとともに、会議等で情報を共有し、教職員全体チームで学校運営を行っている。	学園全体として、「人は財産」という考え方が徹底されており、研修を体系的に行っている。教員対象、事務職員対象、学科長対象、管理職層対象などの階層別研修や、教職員全体研修など目的に応じた種々の研修が実施され、教職員の資質向上を図っている。	4	4	「人は財産」という考え方が徹底されており、研修を体系的に行っていると目標をしっかりとって経営されておられるので、組織運営も適切に行っているし、学生運営のための組織も整備している。
	2-5 人事・給与制度 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	人事関係では就業規則が整備され、育児や介護などの休業に関する規定をはじめ、働く人を支援する枠組みが出来上がっている。人材募集では法人のホームページを中心としてオープンな採用を行っている。基本的に人事関係は法人本部がと統括しているので、問題なく運営されている。	教職員の人事考課は法人全体で共通の内容となっている。まず教職員各々が年間の自己目標に対する自己評価を報告し、それに基づいて一人ずつ上長面談が行われるので、単なる人事考課だけでなく振り返りと成長の機会となっている。	4	4	人事、給与に関する制度は整備されている。
2-6 意思決定システム 2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校内の意思決定システムは整備されており、書類の流れや権限についても学内の会議・研修を通して教職員に周知されている。これらは会議規定等に定められ、年間の事業計画の中にも明示されている。	教職員関係の書式は法人内で統一されている。	4	4	意思決定システムを整備されている。	
2 学校 運営	2-7 情報システム 2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	学生の入学前から卒業後までのデータは、学校の基幹システムであるAS400によって管理されている。このシステムはサーバーと専用回線でつながっておりセキュリティ面でも優れている。メンテナンスは提携している企業が一括管理している。	AS400はすでに25年以上利用しているシステムであり、現在より使いやすくデータ活用のしやすいシステムへ順次変更が行われている。今後、資料請求者のデータ入力や入学生管理のシステムから改良が始まり、出席・成績入力や就職関係などの変更が進められる予定である。	3	3	学生の卒業後までのデータは、学校の基幹システムであるAS400によって管理されている。このシステムはサーバー専用回線でつながっており、セキュリティ面でも優れている。メンテナンスは提携している企業が一括管理しているので、業務の効率化を図っている。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価	学校関係者 評価委員会 評価	学校関係者評価委員からのご意見
3 教育活動	3-8 目標の設定 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	各学科の教育目標、育成人材像は学校の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」および学校の事業計画書を基本に、各学科でミッションおよび学科教育目標を策定し、具体的な教育目標と育成人材を明示している。 各学年での知識・技術・資格等の取得レベルと修得プロセスと評価方法を明文化している。	資格に対して委員会を組織し、体制整備や情報交換を行ない目標設定及びその達成に向け対策を講じている。	4	4	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている。学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしている。
	3-9 教育方法・評価等 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか 3-9-3 キャリア教育を実施しているか 3-9-4 授業評価を実施しているか	教育課程の編成においては、関係各局や関連法規、業界・教育課程編成委員・学校関係者の評価、年2回のカリキュラムアンケート、定期・随時の学生面談など、学校内外の情報や評価をもとに必要な編成・改善を行なっている。	カリキュラムアンケートや講師会議、学生面談など授業評価を聴取し教員にフィードバック・学科内で共有するシステムが整っている。また、学科によっては地域でも最も歴史があり多くの卒業生を輩出している。その卒業生を通じて構築されたネットワークを有効に活用している。	4	4	・教育課程を編成し、外部の意見を反映している。キャリア教育や授業評価を実施している。 ・各学科が関係する業界の動きを把握されているのか？それに合わせた授業があるのか？食品業界を例にするとオリンピックに向けて様々な法律等が変わっていったり、トビックスが常に変化している。就職後にその業界についての動きを知らないと本人も困るだろう。
	3-10 成績評価・単位認定等 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	各学科により成績評価の延長線上に、各国家試験や各資格試験が位置付けられている。学生は各科目の単位を履修することで、各国家試験や各資格試験の実力も伴っておくことが、成績評価の意義でもある	各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻など)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	4	4	成績評価、修了認定基準を明確にし、適切に運用している。放課後、土曜日、日曜日に開講される補習や補講の計画、整合性を考慮していくことがとても大事だと思う。
	3-11 資格・免許取得の指導体制 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	各学科ともに国家試験受験対象学年の学生には、現在も同問題(古い問題は随時同水準問題に差し替え)で継続している国家試験模擬試験(卒業認定試験と呼称)で定観測し分析している。 資格試験については過去問題集に頼っている感が強い。	各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻など)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	4	4	・高校時代に勉強する習慣がない生徒にどのように対応できるかが課題になると思います。よく指導していただいていると感謝します。 ・目標とする資格・免許は教育課程上明確に位置づけられている。資格免許取得の指導体制はあるが特記事項は大事。 ・国家試験合格率を向上させる必要があり、学生の苦手分野を理解し、より個別の対策をとる必要があるのではないか。
	3-12 教員・教員組織 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員の採用にあたっては、必要となる資格や業務経験などを書類や面接によって確認し、法令に定められた要件を守っている。	エンロールマネジメントに沿った入学前～就学中～卒業後でのキャリアパスの考え方を浸透させている。	4	4	・技士会としても経験者を積極的にさあしていただき、技士の魅力を伝えていって下さい。 ・資格、要件を備えた教員を確保している。教員の資質向上への取り組みを行っている。教員の組織体制を整備している。 ・今後、求人数の低下が予想されるため、より幅広い就職先の確保が必要となる。(病院以外も広く就職をすすめる必要がある)
4 教育成果	4-13 就職率 4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職実績のある事業所との良好な関係を維持しつつ、常に業界のマーケティング調査を行い、新規の就職先も同時進行で開拓する事が大切。業界と学生のマッチング率を上げていくことで今後も就職率向上はもちろん、業界との信頼関係を構築していく事が重要。	学生が満足する就職は学生のニーズにあった就職先の確保と事業所が求める人材のマッチングにある。教務と連携を密にし、学生の希望、性格、能力等をキャリアセンターも把握し、教務と共に学生の満足度を上げる就職支援を実施する。	4	4	・最近の人手不足により中小の自動化装置製造、ロボットシステムインテグレータ(ロボットSler)はエンジニアが不足している。そういった企業へのアプローチは重要。 ・人材育成に尽力されておられるとのこと。各施設への訪問などを積極的に行っていたいただき、技士の就職率の向上を期待します。 ・点検表項目総括・特記事項から就職率の向上が図られているのが良く分かる。今まで専門学校卒を探っていなかった小さな企業、メーカーにも「知識のある人材」としてプッシュしているか。たとえ食品工場勤務でも衛生や化学の知識があるかないとは大きく違う。
	4-14 資格・免許の取得率 4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	全般的な学校生活のなかで、年間を通してそれぞれの資格対策において、教職員はもとより、学生も個々の資格取得、高合格率の達成に向けた努力や意欲が見られるが、上下差の拡大傾向は免れない。そのようななかで国家試験合格や資格取得に関する目標を達成する工夫と対策に更なる講師の意識改革も含めた教育努力が必要と思われる。	各学科・各課程(昼間部・夜間部・専攻)による学生の生活や学力に変化があるので、放課後、土曜日や日曜日に開催される補習や補講の計画や整合性を考慮していく必要が生じてくる。	4	4	・合格率の改善が見られ、評価できます。 ・資格・免許の取得率の向上のためいろいろと努力工夫されているのが良く理解できる。
	4-15 卒業生の社会的評価 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	就職先については、定期的就業状況調査に加え求人票入手時や学外実習先依頼時、訪問時やアンケートを通して、卒業生の在職・離職状況、役職など就業状態の把握に努めている。また、同窓会活動や学校イベントに協力していただいた卒業生に直接ヒアリングを行っている。	卒業生の就職先のデータベース化を行っている。卒業生の中には就業先や関係団体で高い評価を受け、相応の役職や役割を担っている者も出ている。また、卒業生には業界特別授業や講師、学校のイベントへの協力など様々な形で学校運営に関わっていただいている。	3	3	・就職しても手厚く指導していただけることに感謝します。 ・実学教育や実践力を養う上で、現場で働く卒業生の力は必要である。同窓会として研究会や業界セミナーなど卒業生を利用すると良い。 ・卒業生の社会的評価を把握している。
5 学生支援	5-16 就職等進路 5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	合同面接練習会を毎年実施しているが、他学科との共同開催をすることで就職への意識付けや気付き、モチベーションの向上に繋がっている。また年々事前課題に対する学生の回答レベルも上がってきており練習会がより本番に近い内容の実施となってきた。	校内就職委員会を設置しており、就職率向上のための対策や学生のモチベーション向上のために就職出陣式や業界特別講義を実施している。 大学編入へのサポートや他国家資格取得のための進学指導も実施。	4	4	・本校卒業生も色々な面で相談していただいていると聞き、心強く思っています。 ・特記事項より、卒業生の社会的評価を把握していることがよくわかる。
	5-17 中途退学への対応 5-17-1 退学率の低減が図られているか	学校経営の原資たる学生の退学は、教育機関として学生の将来に対する責任も相俟って、学校運営の最重要課題の一つである。中途退学の事由は学習不安、経済的困難、進路変更、生活習慣等さまざまであり、学生個々の事由に対応することが求められている。	本校では、退学率を4%以下と目標としている。また、学校カウンセラーが常駐するチューデントサービスセンター(SSC)があり、活用している。	4	4	中途退学への対応は非常に難しい中、学校運営の最重要課題として対応されて、退学率の低減が図られている。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価	学校関係者 評価委員会 評価	学校関係者評価委員からのご意見
5 学生 支援	5-18 学生相談 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	本校は担任制をとることで、日頃の学生の様子や出席状況等を把握し、学生面談を実施している。併せて、状況や場合によっては事務職員が相談窓口となりサポートすることもある。学校全体で連携・協力して学生支援を行えるよう十分なサポート体制を常時整えている。また、学生の身体面・精神面をケアするための学生相談所・クリニックもあり、学生が心身ともに健康で、充実した学生生活を過ごせるように教職員とカウンセラー・医療スタッフが連携・協力して学生支援を行っている。	本校の教職員は研修でカウンセリングスキルを習得しており、担任を中心に学生の悩みに傾聴し、相談しやすい雰囲気を作ることに努めている。また、専門的な高度な知識と技術を持ったカウンセラーが常駐する滋慶トータルサポートセンターを学生なら誰でも利用することができる。教育、心理的な立場から多岐にわたる問題について包括的に学生を支援できるよう体制を整えている。	4	4	学生相談に関する体制を整備されている。学生のことをよく考えて多方面にわり実践し、努力されていることを敬服いたします。
	5-19 学生生活 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか 5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか 5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	独自の育英会奨学金・特待生制度を設け、教育訓練給付金、アルバイト紹介、学費分納制度の設定など学生の総合的な経済的支援体制を行っている。健康管理については学校医である「慶生会クリニック」と連携して取り組んでいる。また、遠隔地から就学する学生のための学生寮も完備している。	設置学科が、昼間部・夜間部・専攻科・日本語学科と多様であるため、経済的支援や健康管理についても各人の状況に応じて対応している。学生寮には寮長・寮母が常駐しているため24時間体制でサポートを行い、緊急時の対応にも完備している。また、災害時等に備え、緊急時安否確認メール制度を導入している。	4	4	学生生活を安心してすごせるように色々実践されていて、整備されている。
	5-20 保護者との連携 5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	入学前・在学中の保護者会・個別懇談会の実施や年度始めに年間スケジュールの送付、前期・後期ごとに成績・資料等の送付をして、本校の教育理念、活動を理解して頂く機会を積極的に設けている。また、就職・国家試験準備保護者会を実施し、学生の状況に合ったサポート体制をとっている。学生生活の基本である学習習慣・生活習慣が重要となるため、担任・学科長・教務部長・学校責任者・事務局・キャリアセンターが連携して保護者と学生への個別対応等のサポート体制をとっているが、複雑化する問題に対してはより一層の連携の強化が必要だと考える。	本校では基本理念である3つの建学理念(実学・人間・国際教育)と4つの信頼(学生・保護者、業界、地域、高等学校)を基礎として、時代に即した職業人教育を行っている。また、入学前教育・キャリア設計(在学中)・キャリア開発(卒業後)と段階を得て、自己実現を目指す学生の支援体制を万全にしき、さらなる個々の状況に応じた教育支援体制をとれるように4つの信頼を深め、各業界や保護者とのより強い連携に努めている。	4	4	・保護者への職種の魅力を伝えるために、技士会のイベントに参加していただいてもよいと思います。 ・保護者との連携体制は十分に構築されている。
	5-21 卒業生・社会人 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	本校の卒業生は全て卒業時に「ハイテク校友会会則」に明記された同窓会会員となり、卒業後教育勉強会や学園新聞を通じて、会員の相互親睦やキャリアアップを図る機会を提供している。また、大阪滋慶学園・医療経営管理研究センター主催の業界セミナーやグループ校や滋慶医療科学大学院大学への進学、海外提携校日本校・姉妹校への入学など、卒業後の再教育プログラムを提供することで更なるキャリア形成を図ることに寄与している。今後、増加が見込まれる社会人経験のある入学生や一部の国家資格試験不合格の卒業生についても、既修得単位認定や的確な教育カリキュラム・教育環境を提供することで更なる支援体制を確立したい。	本校の卒業後教育勉強会は、学科が独自に時代背景に即したテーマを設定し、企画・実施している勉強会である。そのため卒業生のキャリアアップにむけて有意義な場を提供することができる。また、キャリアセンターや図書室は必要に応じて卒業生にも開放しており、転職等の個別相談をはじめ、卒業後のキャリアアップに有効な場として用いられている。また、国家資格系学科(臨床工学技士科・柔道整復師学科・鍼灸師学科)では、本校で必要な所定単位を履修した卒業生については、国家試験不合格となった場合でも、卒業後も継続的に教育支援を行っている。必要に応じた講義、日曜勉強会の聴講や模擬試験受験だけでなく、柔道整復師学科においては、JESC国家資格対策センター主催のリ・スタートセンターに登録することで、滋慶学園8校と連携したICTを活用した定期的な模擬試験の受験や通学制国家試験対策講座の受講が可能となる。	4	4	・4-15の項目でも述べたように、卒業生の力を借りながら、発展していけるのが専門学校である。ホームカミングディなど卒業生と現役生が関わる機会があると良い。 ・卒業生への支援体制を整備している。産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発、実施に取り組んでいる。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備している。
	6 教育 環境	6-22 施設・設備等 6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	校舎の全体状況が把握でき、例年に無く関連企業と連携し対応することができた。環境安全衛生委員会が毎月設備管理を行い早期修理を継続実施した。学生に配慮し、施設設備の管理も行っている。法令順守を意識し短中長期の計画を策定し施設管理を行う。	校舎が3つあり、学生が勉強していく上で休み時間等に移動等が発生するため、配慮した利用を常に考慮する必要がある。その為、奨学金の説明会などは配慮した実施を心がける必要がある。(本館・第2校舎の2箇所実施) また、学生の安全に配慮した設備運営を心がける。	3	3
6-23 学外実習、インターンシップ等 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		学外実習、海外研修では、教育指導要領だけでなく、各学科に実施要綱やマニュアルがありそれを基に準備、実施、振り返りが行われている。特に学外研修においては、業界の実際を知る機会、社会人となる自覚や責任、協調性を培うことの重要性を知る貴重な場となっており、十分な事前準備や必要指定要件を満たしている実習先を確保することが重要となる。また、海外研修は、アメリカ、中国の提携校と連携し、各学科にあったプログラムを実施し、グローバルな視野と感性を養う貴重な機会となっている。	学外実習では、医療系国家資格取得の資格要件を満たすための臨床実習や、出身高校への母校実習、卒業研究の一部としての学外実習、インターンシップ実習など、各学科の特性を活かした実習を行っている。臨床工学技士科、生命工学技術科では、実習前に校章授与式を実施し、学外実習へ取り組む心構えを確認している。また、就職を見据え、学生の希望を反映した実習先を確保することで、実習先が就職先に繋がることも多く見られる。海外研修では、1年次からの事前指導(英会話等の講義)や、研修中の予習・復習を通して研修プログラムをより有用なものとする工夫を行っている。	4	4	・学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制を整備している。 ・学生のモチベーションを向上させるために現場CEの体験談を聞くことができる機会を増やす必要があるのでは？
6-24 防災・安全管理 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		グループを通じて携帯できる「防災マニュアル」を作成し全学生・全教職員に配布し、防災体制の運営にあたっている。また、災害時に備えての施設・設備などの安全管理(固定設置等)も行うと共に防災訓練(消防避難訓練)を全学生、教職員に対し実施要領とおり消防署の指導の基、実施している。	2年前より時期を早め毎年6月に全ての校舎で防災訓練を実施している。また防災訓練の参加者数を意識し、極力、学外実習導入時期を外しての実施計画としている。毎月の環境安全衛生委員会を確認すると共に組織図を毎年4月に更新し情報の共有を行っている。	4	4	・ガラス扉等は災害発生時に割れて飛散して二次災害の事故につながらないよう、飛散防止フィルム等を利用されているのでしょうか？ ・防災に対する組織体制、学校内における安全管理体制を整備し、適切に運用している。
7 学生 の 募集 と	7-25 学生募集活動 7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか 7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	本校は大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、ルールに基づいた広報活動を行い、適正に学生募集を行っている。また、オープンキャンパスや説明会の機会を十分に確保し、学校案内やホームページは広報スタッフが真実性・明瞭性に基づき作成し、それらを通して入学希望者に情報提供を行っている。	学生募集は、対象者別(高校生、大学生、短大生、専門学校生、社会人など)に活動を行い、各学科の定員の確保に努めている。また、入学までに資格取得のための勉強会や入学前授業を実施するプレスクールなどを実施。入学前教育の一環として取り組んでいる。	4	4	・学生数、特に若い方の年代の人口減少で苦労されておられるとのこと。技士会主催のキッズセミナーなどへの参加もいただけており、評価できます。 ・高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいる。学生募集と適切かつ効果的に行っている。 ・ロボットという言葉はインパクトはあるが就職の具体的なイメージと結びつきにくい面がある。ロボットシステムインテグレータ(ロボットSter)のような企業などイメージし、学生にPRするのがよいかと思われる。 ・中学生・高校生に専門学校進学への動機付けを行うのは困難であるため、社会人・大学生に対する活動を増やしたらどうか。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価	学校関係者 評価委員会 評価	学校関係者評価委員からのご意見
受入	7-26 入学選考 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入試選考は、募集要項で明示した選考基準に基づき、公平かつ適正に選考を行っている。可否に関しては、入試判定会議にて各業界の適性を考慮して常務理事、事務局長、事務局次長、事務部長、学科長が参加のもと判定を行っている。入試選考で得られた学生情報は、入学後の学習サポートやクラス運営に役立っている。	入試選考は多様化する社会情勢にあわせて、特別指定校推薦、適性AO、適性クラブAO、業界推薦、卒業生推薦、推薦、一般の種別を設け、選考を行っている。また、資料請求から来校、出願までの履歴をデータとしてまとめ、入学までの導線を把握している。さらにインターネットから出願やエントリーできる「ネット出願」「WEBエントリー」も導入している。	4	4	・入学選考基準を明確化し、適切に運用されている。学生募集に関する実績を把握し、授業改善等に活用している。 ・定員充足も必要であるが、最低限のレベルの確保には努めていただきたい。
募集と受入	7-27 学納金 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	社会情勢を踏まえ、毎年、学納金については見直しを行うとともに、入学前のオープンキャンパスの段階で奨学金や教育ローンの情報を提供するなど学費相談も個別に対応している。学納金の明細・内訳も提示し、追加徴収は行っていない。また、入学辞退者に対する授業料の返還については募集要項に記載し、適切に対応している。	AS400システムで学納金データを管理しており、銀行等からの入金情報がタイムリーに把握できるようになっている。また、経理・広報・教務が連携して学費未納者の情報を共有し、必要に応じて個別で本人や保護者に対応している。	4	4	経費内容に対応し、学納金を算定している入学辞退者に対し、授業料等について適切な取り扱いを行っている。
8 財務	8-28 財務基盤 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	資金を増加させて安定な学校運営をしていくためには、過去の分析とともに将来の分析も必要となる。そのためには過去と将来の資料を分析して学生数の増加による収入の増加及び、経費の見直しを図って資金を増やしていくことが必要となる。その情報と推移は、適切に分析と把握が行なわれていると考える。	学生数の増加のために広報活動にも影響を与えるので、そのための定期的な会議や打ち合わせを行なっている。	4	4	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。学校及び、法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析は行われている。
	8-29 予算・収支計画 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	年度予算、中期計画は毎年3月に作成し承認を得る事業計画の中に組み込まれて作成される。中期計画を見据えて年度予算が立てられるので、誤った方向へ進まないようにしている。	予算の執行状況は、理事長、常務理事、事務局長(予算執行責任者)が目を通し、改善を図っている。	4	4	前年度予算、中期計画を策定している。予算及び計画に基づき、適性に執行管理を行っている。
	8-30 監査 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	財務体制の強化を図るために監事の監査に加えて公認会計士監査も積極的に受けている。監事の監査は業務監査と会計監査、公認会計士監査は会計監査が行なわれるので、両者の効率的な実施のために監事と公認会計士との連携及び監査スケジュールを組んでいる。	学校、監事、公認会計士との財務上の指導を受けるために、ミーティングを設けている。	4	4	監事の監査に加えて、公認会計士監査を積極的に受けて、私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施している。
	8-31 財務情報の公開 8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	平成17年の私立学校法改正に伴い、専修学校にも財務情報の公開が義務付けされたが、その改正を取り入れ、財務情報公開の体制を整えた。当初は閲覧の対応であったが、現在はホームページにも公開している。	資金収支、消費収支、貸借対照表、財産目録及び事業報告書について閲覧可能としている。	4	4	私立学校法に基づく、財務公開体制を整備し、適切に運用している。閲覧可能、ホームページにも公開して信頼度が高い。
9 法令等の 遵守	9-32 関係法令、設置基準等の遵守 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	本校は厚生労働省管轄の国試系学科を含む複数の学科を擁しており、手続きや報告等は所轄官庁の指導に基づき適切に行われている。教職員に対しては、就業規則などの諸規定を整備し、会議や研修でコンプライアンスを守ることの意義についても指導している。学生に対しても「関連法規」や就職指導の授業内で法令・ルールの遵守や倫理について指導を行っている。	法令遵守や各種規定の整備、相談窓口の設置などは法人全体として取り組んでおり、ステークホルダーに対する責任を果たしている。	3	3	法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。
	9-33 個人情報保護 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	学生への指導の徹底を行っているがITリテラシーなども絡めながら継続的な指導が重要。全体会議や事務局会議などを通じて教職員に対しての研修、勉強会による啓発活動は実施している。	本校では毎年6月にかけて各校舎に保管されている個人情報の状況確認を行い、個人情報保護台帳を作成している。また、CPAの個人情報保護の資格を毎年更新して意識付けを図っている。	4	4	・特にSNS等のITリテラシーが今後問題になってくる中で、必須項目として取り組まれているところが評価できます。 ・学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施している。
	9-34 学校評価 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか 9-34-2 自己評価結果を公表しているか 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	本校では平成23年度より毎年自己評価報告書を作成している。作成にあたっては全教職員がそれぞれの業務に応じて参画しており、業務の振り返りを行うことで学校運営の改善に役立っている。自己評価報告書は学校関係者評価とともに学校ホームページで公開されている。	本校では平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し、在校生保護者、卒業生、地域代表、業界代表などの委員による学校関係者評価を実施した。その結果については学校ホームページに掲載し、公開されている。学校関係者評価委員からの評価により、学内の改善点が明確となり、学校運営に良い影響を与えている。	4	4	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っている。自己評価結果を公表している。学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っている。学校関係者評価結果を公表している。
	9-35 教育情報の公開 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校の概要や各学科の教育内容等については、学校ホームページに公開されている。教育指導体制や教育システムの情報とその成果である退学率や国家試験の合格率などの情報についてもすべて学校ホームページにおいて公表されている。	平成26年度からスタートした職業実践専門課程の認定を受けたことにより、さらに情報公開を進めることができた。	4	4	教育情報に関する情報公開を積極的に行われている。
10 社会	10-36 社会貢献・地域貢献 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	社会貢献・地域貢献はある程度できているが、もっと広い視野を持ち活動を行える環境整備が必要である。国際交流は盛んに行われている。今後は情報の発信力を高めることにより、もっと良いものとなるだろう。	アジア圏への、臨床工学関連の研修協力を始め、臨床工学フォーラムを中心にアジア諸国との連携の強化は進んでいる。臨床工学技士科は特に海外進出が進んでいる。	4	4	・当院でも中国出身のスタッフが活躍されており、文化やマナー等の指導も積極的に行われていることが評価できます。 ・学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献を行っている。

大項目	点検・評価項目	点検表項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)	自己評価	学校関係者 評価委員会 評価	学校関係者評価委員会からのご意見
社会貢献	10-37 ボランティア活動 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	本校では、学外実習の形でボランティア活動を行うことが多く、実学教育と人間教育がその根底となっている。ボランティアに関する啓発活動は人間教育の一つと考え、その活動は推奨されている。	本校では学外実習や業界ボランティア活動など積極的に行っている。業界連携として学会支援や、スポーツ系イベントの支援・トレーナー活動、ロボット工作教室の支援も行っている。近年は毎年『クリーン大阪』に教職員・学生共に参加し、大阪府専修学校各種学校連合会から依頼され、東北でのマッサージボランティアに教職員・学生共に派遣した。献血活動においても赤十字社より表彰を受けている。	4	4	・技士会の献血呼び込み活動にも積極的にさんかしていただき、評価できます。学生ボランティアの精神を育てられるよう期待します。 ・学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援も行われている。 ・本校卒業生も春季合同合宿にトレーナーとして参加してもらい、怪我のケアだけでなく競技者のとしての心構えや精神的な支えとしても助けていただいた。
1 1 国際交流	11 国際交流に取り組んでいるか	-	-	-	-	-

その他、ご意見等ございましたらご記入下さい。

・貴校の学生は、臨床工学技士になるんだという意識や教育が非常にいい環境なされていると感じます。
 ・臨床工学技士会でもセミナー等を企画していますので、学生への案内も積極的に行っていただければ内容が難しくても先輩技士との交流にもなるのではと思います。
 ・全ての評価項目に対し、個々に多方面に亘りしっかりと実施、実践されておられること。地域にボランティアで来てくださる学生さんたちにも礼儀正しく、明るいとても良い学生さん達だと地域住民一同心より感謝し、敬服いたしております。
 ・世の中にはウソ科学の商品があふれている。それを見抜く力をつけるためにもグループでディスカッションをさせるというのはいかがでしょうか？
 ・同様に食品や添加物を批判する本もあふれている。正しく対応できる力が身につけば、本人が他人から相談された時にも正しく説明でき、結果として学校の評価も上がってくるのでは？
 ・いつもお世話になりありがとうございます。本校卒業生も母校にもどってきて、学校の様子や先生方の御指導に感謝する言葉を良く聞きます。これからも御指導よろしくお願ひ致します。
 ・少子化の中、高卒者の確保が難しくなりつつある。大学生や社会人に対するCE紹介の活動を盛んにし、本科や夜間部への入学を促す必要があると考える。専攻科に対しては、業界から反対の声が大きい為、今後認められなくなる予測を考慮しておく必要がある。
 ・CEのカリキュラムを見直す動きが有り、次年度くらいから検討が始まる見込みである。内視鏡、不整脈、手術など現在のカリキュラムにはない分野が取り入れられると予想する。早めの対策を行う必要がある。
 ・また、昨今の医療職養成課程にてチーム医療教育が必須となっている。CEIにおいても他の医療職と合同でワークショップ形式の教育を行う必要があると考える。